

講義コード	2N026011
講義名	チーム医療論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4404
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕

目的

現在の医療・看護においてチーム医療は必要不可欠である。患者への安全で効果的な医療提供には、保健・医療・福祉の専門職による「連携と協働によるアプローチ」が重要である。この科目では、チーム医療の必要性や特徴、チーム医療における看護職の役割・必要な能力などについて学修する。

到達目標

1. チーム医療の必要性について述べることができる。
2. チーム医療における看護職の役割について説明できる。
3. ディスカッションを通して看護チームでの自分の課題が明確にできる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

協働する力／自己研鑽力

授業計画

1. チーム医療とは
2. 患者の立場からチーム医療を考える
3. 看護組織におけるチーム医療
4. 医療チームに必要な能力
5. チーム医療で活躍している看護職の実際
6. チーム医療において拡大する看護師の役割
7. チーム医療の評価

成績の評価

定期試験80%・授業への取り組み度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

プリント

参考資料

授業中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

講義コード	2N067012
講義名	英語表現法Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。
- (3) 1年次の医療英語の総復習を行い、応用力を身につけること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して活用できる。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになる。
- (3) 一歩進んだ医学・医療関係の英語が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

* 授業は英語で実施する。日本語厳禁！

1. Scheduling a meeting
2. Taking and leaving a message
3. Discussing restaurants
4. Expressing preferences
5. Explaining your responsibilities
6. Inquiring about a part-time job
7. Getting help in a store
8. Comparing stores
9. Enjoying your stay abroad
10. Talking about Japan (Part 1)
11. Review of Medical English, Book 1 (1)
12. Review of Medical English, Book 1 (2)
13. Review of Medical English, Book 1 (3)
14. Review of Medical English, Book 1 (4)
15. Course review and consolidation III

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

Berlitz English for University Students, Book 2

Medical English, Books 1 & 2 (副教材)

講義コード	2N068012
講義名	英語表現法Ⅳ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。
- (3) 医療英語についての応用力を身につけた上で、英語でプレゼンテーションができるようになること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して活用できる。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになる。
- (3) 一歩進んだ医学・医療関係の英語が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

* 授業は英語で実施する。日本語厳禁！

1. Talking about Japan (Part 2)
2. Reporting situations
3. Staying at a hotel
4. Going sightseeing
5. Talking about your neighborhood
6. Describing your dream house
7. Review of Medical English, Book 2 (1)
8. Review of Medical English, Book 2 (2)
9. Review of Medical English, Book 2 (3)
10. Review of Medical English, Book 2 (4)
11. Presentations (1) Planning a presentation
12. Presentations (2) The opening
13. Presentations (3) The body
14. Presentations (4) The closing
15. Course review and consolidation IV

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

Berlitz English for University Students, Book 2

Medical English, Books 1 & 2 (副教材)

講義コード	2N071011
講義名	疫学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2306
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 笠松 隆洋	指定なし

目的

疫学は人間集団を対象に、疾病に関わる要因を究明し、疾病と要因との因果関係を明らかにすることを旨としており、健康に関する諸問題に対する有効な対策樹立に有効な学問であることを理解する。

到達目標

疾病の予防、健康の保持増進を目的とした保健活動を科学的に行うことができるようになるための知識を習得するとともに、種々の健康情報を正しく理解するための能力を身に付ける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 疫学基本的な考え方
2. 疫学的基本的な用語の理解、因果関係判定指標
3. 疾病頻度の表し方（有病率、罹患率、累積罹患率）
4. 疾病頻度の表し方（死亡率、致命率、相対頻度）
5. 曝露の効果を表す指標（相対危険、寄与危険）
6. 曝露の効果を表す指標（寄与危険割合、人口寄与危険割合）
7. 疫学調査方法（記述疫学）
8. 疫学調査方法（分析疫学）
9. 疫学調査方法（介入研究）
10. 疫学研究の質（母集団と標本、偶然誤差と系統誤差）
11. バイアス（選択バイアス、情報バイアス、交絡）
12. 交絡の制御方法
13. 直接法による年齢調整死亡率
14. 間接法による年齢調整死亡率
15. スクリーニング検査

成績の評価

定期試験の成績(90%)に平常点(10%)を考慮して評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

成績発表後に定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

本科目は30時間の授業ですので、講義1コマにつきおよそ1時間の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

保健師国家試験の過去問題集を図書館等で閲覧し、目を通しておくこと。

テキスト

「基本からわかる看護疫学入門 第3版」 (医歯薬出版)

参考資料

「はじめて学ぶやさしい疫学ー疫学への招待 改定第3版」 (南江堂)

「基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版」 (医学書院)

講義コード	2N087021
講義名	看護にいかすツボ刺激
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4402
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 英世	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

松浦英世

目的

東洋医学では「病気の反応点であり、治療点である」と定義されているツボを「肩こり」や「腰痛」「足のむくみ・つり」「めまい」「頭痛」その他、床ずれの予防や乳腺症の予防等を変えてそのツボの部位と効果について解説し、マッサージ実技も交えて看護技術の一つとして応用可能な、手指による刺激方法についても概説し、総合的に患者さんへの触れかた（手当）を体験する授業をします。

到達目標

各疾患にあわせたマッサージ技術の習得
 個々の患者さんにあったマッサージ実技の習得
 患者さんへの触れ方、手当て、言葉遣いなど身につける

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／自己研鑽力

授業計画

1. マッサージの基本手技および経穴への手指刺激法
2. 肩こり（ねちがいなど）へのマッサージおよびツボ刺激
3. 頭痛・耳鳴りなどへのマッサージおよびツボ刺激
4. 疲れ目・三叉神経痛などへのマッサージおよびツボ刺激
5. 腰痛（床ずれなど）へのマッサージおよびツボ刺激
6. 内科疾患（胃痛・便秘異常など）へのマッサージおよびツボ刺激
7. 内科疾患（月経痛・泌尿器疾患など）へのマッサージおよびツボ刺激
8. 内科疾患（呼吸器など）へのマッサージおよびツボ刺激
9. 胸部疾患（乳腺症など）へのマッサージおよびツボ刺激
10. 五十肩・テニス肘等に対するマッサージおよびツボ刺激
11. 上肢（手のしびれ・腱鞘炎）へのマッサージおよびツボ刺激
12. 坐骨神経痛に対するマッサージおよびツボ刺激
13. 下肢（足のしびれ・むくみ・つりなど）へのマッサージおよびツボ刺激
14. 片麻痺に対するマッサージおよびツボ刺激
15. 治療の総括

成績の評価

レポート課題

テキスト

1. 「スポーツマッサージ」 (KATA実技指導員著)
2. 配布資料

講義コード	2N090011
講義名	看護過程論
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N2-3104
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕

目的

看護は、あらゆる健康レベルにある人のニーズに対応し、その人らしい生活を支援するために看護過程を用いて実践する。この科目は人々の健康問題を解決する方法である看護過程について基礎的な知識と技術を学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 看護過程の意義とプロセスを説明することができる。
2. ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程の基本的な展開方法が理解できる。
3. 紙上事例を用いて看護過程の基礎的な展開ができる。
4. 模擬的な電子カルテを用いて基本的な看護過程の展開方法が理解できる。
5. クリニカルパスと看護診断の基礎的知識が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

- 1.看護過程のプロセスと問題解決思考
- 2.アセスメント1（情報収集の種類と方法）
- 3.ゴードンの11の機能的健康パターン
- 4.アセスメントのための基礎的知識
- 5.アセスメント2（情報の整理）
- 6.アセスメント3（情報の分析・解釈の統合）
- 7.問題の明確化
- 8.全体像の作成
- 9.優先順位の決定
- 10.看護問題の記述
- 11.期待される結果1
- 12.期待される結果2
- 13.看護計画の立案1
- 14.看護計画の立案2
- 15.実施・評価
- 16.看護記録の意義と必要性、情報の必要性と種類
- 17.電子カルテの基本的操作
- 18.活動-運動に問題がある患者の事例展開（情報収集）

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 19.活動-運動に問題がある患者の事例展開 | (情報の分析と解釈) |
| 20.活動-運動に問題がある患者の事例展開 | (全体像、看護問題の特定) |
| 21.活動-運動に問題がある患者の事例展開 | (期待される結果) |
| 22.活動-運動に問題がある患者の事例展開 | (計画立案) |
| 23.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 | (情報収集) |
| 24.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 | (情報の分析と解釈) |
| 25.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 | (全体像、看護問題の特定) |
| 26.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 | (期待される結果) |
| 27.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 | (計画立案) |
| 28.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 | (実施・評価) |
| 29.看護診断の基礎 | |
| 30.クリニカルパスの概要 | |

成績の評価

前期(定期試験40%)・後期(定期試験40%)・授業への取り組み度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」(医学書院)
(1年次に購入した本)

参考資料

授業中に紹介する

オフィスアワー

月曜日 12:20~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館 C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

講義コード	2N094011
講義名	看護倫理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N2-4101
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

辻幸代〔看護師・保健師〕

目的

看護実践において最も大切なことは、看護専門職として、人々を健康で幸福な生活の実現に貢献することを自らの使命とし、倫理の重要性や倫理に関する原則や基本をふまえた行動がとれるよう自己に問う姿勢を持ち続けることである。そこで、看護専門職あるいは看護学生として、倫理をふまえた看護実践ができるよう、臨床で遭遇するさまざまな倫理的問題を解決するための理論や知識を学ぶ。

到達目標

1. 人々の基本的人権について説明し、基本的人権の擁護の基礎的理解ができる。
2. 看護専門職に求められる倫理的責任と倫理的行動の基準について説明できる。
3. 看護を取り巻く倫理的課題とその背景を理解できる。
4. 事例を通して倫理的課題の実際を知る。
5. 倫理的課題を解決するための理論を知る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

倫理に基づく行動力／協働する力

授業計画

1. 倫理を学ぶ意義、基本的人権
2. 倫理に関する重要な概念
3. 生命倫理と看護倫理
4. 倫理原則
5. 臨地実習と倫理
6. 看護職が直面している倫理的課題
7. 倫理的課題を解決するための理論
8. 看護者の倫理綱領

成績の評価

定期試験90%と授業中に記載する振り返りシート10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

1. 授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行う。

2. 生命倫理で学修した内容を振り返って整理しておく。
3. 授業ごとに振り返りシートの記載を求めるので復習をして臨む。

テキスト

「系統看護学講座 専門分野1 看護学概論」(医学書院)1年次の際に購入したもの

参考資料

1. 「看護実践の倫理 第2版 倫理的意決定のためのガイド」 サラ T. フライ, メガン-ジェーン・ストーン著 片田範子, 山本あい子訳, 日本看護協会出版会
2. 「事例でまなぶ ケアの倫理」 ナーシング・サプリー編集委員会編, メディカ出版

オフィスアワー

水曜日 (12:10~13:10)

研究室・授業用E-mail

5号館7階C707研究室 s.tsuji@kansai.ac.jp

講義コード	2N102011
講義名	基礎看護学実習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N2-3110
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中納美智保〔看護師〕
 辻幸代〔看護師〕
 松下直子〔看護師〕
 堀本知春〔看護師〕

目的

基礎看護学実習Ⅱでは、患者とのかかわりを通して患者の理解を深め、必要な看護に気づき実践していくためのプロセスを学ぶ。さらに実習を通して看護学生としての倫理観を高めることを目的とする。

到達目標

- 1.患者とのかかわりを通して日々の必要な看護援助を考え実施することができる。
- 2.受け持ち患者の理解を深めることができる。
- 3.看護学生としての適切な態度・責任ある行動をとることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

基礎看護学実習Ⅱの実習要項を参照

- ・2月または3月に行う。
- ・急性期病院・地域支援病院等の医療施設で行う。
- ・原則1人の患者を受け持ち実習する。
- ・1グループ4～5名の学生で構成する。
- ・実習時期や実習病院などの詳細については全体オリエンテーションで説明する。

成績の評価

実習記録を含め、実習評価表に基づいて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実習最終日に実習評価に関する面談を行う。

自己学習

オリエンテーションで説明する。

テキスト

テキストは指定しない。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館 C708研究室・nakano@kansai.ac.jp (中納)

講義コード	2N129021
講義名	公衆衛生学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2304
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 笠松 隆洋	指定なし

目的

健康の保持増進及び快適な生活環境を確保するための方策を学修する。

到達目標

健康への関心を深めるとともに、主体的に健康づくりに取り組む態度を養う。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 健康の概念と公衆衛生学
2. 人口静態統計
3. 人口動態統計
4. 保健統計、傷病統計
5. 疫学
6. スクリーニング
7. 母子保健・学校保健
8. 成人保健・高齢者保健
9. 感染症（1）
10. 感染症（2）
11. 食品衛生
12. 国民栄養
13. 環境保健（1）
14. 環境保健（2）
15. 産業保健

成績の評価

定期試験の成績(90%)に平常点(10%)を考慮して評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

成績発表後に定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

本科目は30時間の授業ですので、講義1コマにつきおよそ1時間の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

看護師国家試験の過去問題集を図書館等で閲覧し、目を通しておくこと。

テキスト

「よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 第10版」(金原出版)

「国民衛生の動向 2018/2019」(厚生労働統計協会)

参考資料

「シンプル衛生公衆衛生学 2018」(南江堂)

「公衆衛生学 2019年版」(医歯薬出版)

講義コード	2N132011
講義名	公衆衛生看護学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3409
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平尾恭子〔保健師〕

目的

地域の人々が健康を保持・増進し疾病を予防できるよう、また疾病や障害をもちながらもその人らしく地域で生活できるよう支援を行う公衆衛生看護の理念、活動目的、方法、保健所・保健センターで働く保健師の役割について、また、学校および事業所の保健師活動について、歴史的変遷をふまえ理解する。

到達目標

1. 公衆衛生看護の理念および公衆衛生看護に用いる概念について理解する。
2. 公衆衛生看護活動の目的、方法、保健活動の展開について理解する。
3. 保健所・保健センターで働く保健師の役割を理解する。
4. 学校保健および産業保健における保健師の活動を知る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. ガイダンス、健康と生活、地域
2. 公衆衛生看護とは
3. 公衆衛生看護の主要概念
4. 公衆衛生看護の活動方法①
5. 公衆衛生看護の活動方法②
6. 公衆衛生看護の活動方法③
7. 公衆衛生看護の歴史
8. 母子保健活動①
9. 母子保健活動②
10. 生活習慣病予防
11. 介護予防
12. 精神保健活動
13. 産業保健における保健師の活動
14. 学校保健における養護教諭の活動
15. 公衆衛生看護活動の展開

成績の評価

試験80%、レポート10%、授業への取り組み度10%
定期試験、レポート等に対するフィードバック
定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。
自己学習
授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
履修上の注意
本科目は「キャリア教育科目」に指定されている。
テキスト
「最新公衆衛生看護学 各論1 第3版 2019年版」（日本看護協会出版会）
参考資料
1. 「最新公衆衛生看護学 第3版 総論 2019年版」（日本看護協会出版会） 2. 「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」（医学書院） 3. 「最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論」（メヂカルフレンド社） 4. 「無名の語り 保健師が「家族」に出会う12の物語」（医学書院）
オフィスアワー
水曜・12:10～13:00
研究室・授業用E-mail
5号館7階C711研究室、kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	2N152012
講義名	子どもの健康と看護
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学分野
科目ナンバリング	N2-3205
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津島和美(看護師) 三浦美知代(看護師)

目的

子どもは成長発達の途上である。子どもを取り巻く養育者をふまえた環境との相互作用を通じ子ども自身のもつ能力を発揮しながら成長発達を遂げていく存在であり、子どもにとっての健康とは健やかに成長発達を遂げることである。この科目では、子どもの成長発達に必要な基本的知識、ライフサイクルにおける子ども期各期の特徴を学習し、子どもの成長発達過程を学修する。

到達目標

1. 成長発達の原理原則と成長発達に関する基礎知識が理解できる。
2. ライフサイクルからみた子ども各期の特徴が理解できる。
3. 子どもの成長発達と環境との相互作用の必要性を説明することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 生涯人間発達からみた子ども期の特徴
2. 成長発達の一般的原則と基礎知識
3. 乳児期、幼児期の形態的成長、機能的発達①
4. 乳児期、幼児期の形態的成長、機能的発達②
5. 乳児期、幼児期の精神的発達① 乳児期、幼児期の遊びの意義
6. 学童期、思春期の特徴と健康
7. 子ども期の特徴と事故予防
8. 子どもに関する諸統計

成績の評価

定期試験(95%) 授業への取り組み(5%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

- ・授業1コマにつき2コマ(180分)の予習と復習を行うこと。

テキスト

「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①」(医学書院)

オフィスアワー

火曜日 16:00～18:00

研究室・授業用E-mail

C704研究室 tushima@kansai.ac.jp (津島)

講義コード	2N161011
講義名	女性の健康と看護
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N2-3201
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田中静枝（助産師）

目的

母性の基礎となる概念について、対象の特徴や対象を取り巻く社会の変遷と現状の問題点について実際の臨床場面から理解を深め、母性看護の課題や役割について学修する。また、リプロダクティブヘルスの水準を維持・増進し母性に関する健康障害の予防と回復に寄与するため、対象者の持てる力が引き出せるよう促し、生活を整えるために重要な関係法規を学修する。

到達目標

- ・母性看護およびリプロダクティブヘルスの中心概念について説明できる。
- ・母性看護の役割、法的責任と倫理について説明できる。
- ・女性の身体の形態と機能の特徴について説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 母性看護の基盤となる概念
2. リプロダクティブヘルスに関する概念と動向
3. リプロダクティブヘルスに関する倫理と倫理的課題の実際
4. リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援
5. 生殖に関する生理
6. 生殖における健康問題と看護
7. 不妊症
8. 加齢とホルモンの変化

成績の評価

試験80%・小テスト20%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

指定されたテキストで授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者選考試験において、母性看護学に関連する科目に相当する。

テキスト

概論・リプロダクティブヘルスと看護：メディカ出版

参考資料

- ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論：医学書院
- ・国民衛生の動向：厚生労働統計協会
- ・母性看護学Ⅰ：医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

随時可能も事前に連絡のこと

研究室・授業用E-mail

5号館C703研究室 s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	2N169023
講義名	情報科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 増田 亮	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

増田 亮

目的

本講義の目的は、社会において必要となるPCの基本的な操作及び知識を身に着けることである。医療においてもその他の分野においてもコンピューターの利用により機器の高度化が加速的に進んでおり、そのような高度化に対応するためにも基礎的なPCの技能はすでに最低限の社会的常識となっている。そのような技能の基礎を成す、情報に対してどのような処理を施し、その結果をどのように表現するかという点の基本を習得することが目的である。

到達目標

PCの基本操作から始め、文書作成・画像処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶツールとしてPCを使うための基礎的なスキルを身に着ける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／課題探究力

授業計画

1. 講義の概観、情報社会のセキュリティ、PCの基本操作
2. ワードソフトの利用 - 文章作成・編集
3. ワードソフトの利用 - 表の使い方
4. ワードソフトの利用 - 図の使い方
5. ワードソフトの利用 - レポートの作成
6. 表計算ソフトの利用 - 表の作成と編集
7. 表計算ソフトの利用 - 関数の利用
8. 表計算ソフトの利用 - グラフの作成
9. 表計算ソフトの利用 - データの活用(1)データの選択
10. 表計算ソフトの利用 - データの活用(2)条件分岐
11. 表計算ソフトの利用 - 文書の作成
12. プレゼンテーションソフトの利用 - プレゼンテーションスライドの作成
13. プレゼンテーションソフトの利用 - 効率的な利用
14. 総合演習
15. まとめ

成績の評価

授業への取り組み度を含めた授業中に与える課題の提出物：60%

試験の成績：40%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

各回の課題については授業中に解法を解説する。試験については終了後、模範解答を開示する。

自己学習

PCへの習熟度によるが、授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を推奨する。本講義では授業中に課す課題を時間内に完成させることを重視するため、習熟度に自信の無い場合は予習を重点的に行うことを奨める。実習内容・講義への質問について、「授業用E-mail」欄のアドレスへの連絡歓迎。

履修上の注意

この講義はPCを常に操作する実習形式をとるため、欠席をしないこと。課題を授業中に完成できなかった場合でも、出来たところまでを提出すること。欠席した回の課題の後日の提出については、原則認めない。また、多くの課題は互いに大きく関連するため、完成できなかった課題や欠席時の課題については自習しておくこと。加えて、講義に用いる課題等はテキストに基づいているので、テキストは毎回準備しておくこと。

テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」(noa出版)

オフィスアワー

月曜日 12:15～12:45

研究室・授業用E-mail

masudar@rri.kyoto-u.ac.jp

講義コード	2N175011
講義名	心の健康と看護
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3307
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川端 明雄〔看護師〕、和田 幸子〔看護師〕

目的

心の健康は、いきいきと自分らしく生きるための重要な条件であり、生活の質にも影響する。心の健康の保持・増進に向けて、心の構造と機能、ライフサイクルに起こりうる問題、現在社会における心の問題などの基本的な理解をする。精神医療の歴史的変遷をふまえ、個人の尊厳と権利擁護、社会参加を目指した精神看護の必要性、意義、目的を明確にする。

到達目標

1. 心の健康を維持機能と問題が起こりうる要因を理解する。
2. 心を病んだ人々への精神医療と看護の変遷を理解する。
3. 個人の尊厳・権利擁護、社会参加の必要性を理解し、精神看護の目的を明確化する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 心の健康とは(和田)
2. 精神医療と看護の歴史的変遷 (川端)
3. 精神保健医療福祉の制度 (和田)
4. 精神保健関連法規、精神医療福祉の現状と課題 (和田)
5. 心の構造と機能と発達 (和田)
6. ライフサイクルと起りうる問題 (和田)
7. 看護師と心の健康問題 (川端)
8. 多職種チームと精神看護の果たす役割 (和田)

成績の評価

定期試験による評価を行なう。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種のつながり(改訂第2版)」(南江堂)

参考資料

講義中に適宜紹介

オフィスアワー

金曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室 s.wada@kansai.ac.jp (和田)

5号館7階C721研究室 kawabata@kansai.ac.jp (川端)

講義コード	2N282011
講義名	日常生活活動学 (ADL)
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N2-2107
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東藤 真理奈	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

東藤真理奈〔理学療法士〕

目的

日常生活活動 (ADL)とは、日々の生活でおこなうあらゆる動作を指す。看護学の分野においても、退院後の予後や在宅生活をサポートする上では欠かせない学問となる。実際に、看護分野では回復期病棟においてADL能力を評価することも求められている。本講義では、ADLの概念、範囲、評価の方法、ADLを支援する自助具や機器について理解を深めることを目的とする。

到達目標

日常生活活動の定義と諸動作の仕組みを理解し、看護計画等の評価とケアに反映できるようにする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 日常生活活動の概念
2. 日常生活活動と国際分類
3. 基本動作
4. 身の回り動作
5. コミュニケーション
6. 生活関連動作
7. ADL評価①
8. ADL評価②
9. 自助具とADL支援機器①
10. 自助具とADL支援機器②
11. 疾患別ADL①
12. 疾患別ADL②
13. 疾患別ADL③
14. 疾患別ADL④
15. まとめ

成績の評価

定期試験85%、授業中に行う小テスト15%にて総合的に評価します。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

実技も行いますので、その際は動きやすい服装を用意してください。

テキスト

毎回の講義でプリントを配布します。

参考資料

「臨床理学療法評価法」(アイペック)

「理学療法テキストⅣ 日常生活活動(ADL) 第2版」(神陵文庫)

オフィスアワー

月曜日：12：30～13：10

研究室・授業用E-mail

4号館5階第一共同研究室

Mail：todo@kansai.ac.jp

講義コード	2N317011
講義名	保健・医療・福祉制度論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2305
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

辻 幸代〔看護師・保健師〕
 前久保 恵〔看護師〕
 平尾 恭子〔保健師〕

目的

看護専門職が質の高い看護を提供するには、健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度の概要とそれを規定する法令及び制度を理解し、看護の対象者に適切に説明できなければならない。

社会において看護専門職がどのような役割を持っているかを正しく認識し、保健・医療・福祉に関する法令及び制度を学び、日常での生活やニュースなどに関連づけて考察する力を養う。

到達目標

1. 人々の生活がさまざまな制度や法律で支えられていることを説明することができる。
2. 看護専門職の法的な役割や責務について述べるができる。
3. 我が国の保健・医療・福祉に関する主要な制度について述べるができる。
4. 身近なニュースに関心を持ち、保健医療福祉制度と関連づけて考えることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／協働する力

授業計画

1. ガイダンス及び法の概要（辻）
2. 看護職に関する法（辻）
3. 医療関係の資格に関する法（辻）
4. 医療法の概要（辻）
5. 医療保険・年金の関する法（辻）
6. 医薬品等に関する法（辻）
7. 労働に関する法（辻）
8. 社会保障と生活保護法（前久保）
9. 高齢者福祉政策と介護保険制度（前久保）
10. 介護保険法とその概要（前久保）
11. 障害者に関する法（前久保）
12. 地域・学校保健に関する法（平尾）
13. 感染症予防・医療に関する法（平尾）
14. 母子保健・福祉に関する法（平尾）
15. 精神保健・福祉に関する法（平尾）

成績の評価

定期試験100%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行う。

保健・医療・福祉に関する報道等に興味を持ち、授業で学修したことと関連づけると理解が深まる。

テキスト

「ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度」(メディカ出版)

参考資料

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

辻幸代 水曜日12:10~13:10

前久保恵 水曜日12:10~13:10

平尾恭子 水曜日12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C707研究室 (辻) s.tsuji@kansai.ac.jp

5号館7階C706研究室 (前久保) maekubo@kansai.ac.jp

5号館7階C711研究室 (平尾) kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	2N320011
講義名	保健統計学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2307
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮井 信行	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

宮井信行

目的

保健医療分野では、対象者から得られる様々な情報を収集してそれを処理している。近年、この情報処理にコンピュータ技術が大きく関わってきており、コンピュータによる情報処理手法の理解と習得が不可欠となってきた。本講義では、情報処理に必要な統計学の知識や技術を習得する。また、各種の保健統計のうち、人口動態統計および疾病統計から得られる指標をもとに、出生や死亡の動向、健康水準の現状などについて解説する。

到達目標

保健統計と統計学の基礎を理解し、簡単な統計分析が行え、研究に活用できるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

- 1.母集団と標本
- 2.データの種類と尺度
- 3.基本的な統計量（代表値と散布度）
- 4.母数と統計量、点推定と区間推定
- 5.平均と割合の推定
- 6.仮説検定
- 7.平均の差の検定
- 8.割合の差の検定
- 9.差の検定方法の種類と選択
- 10.相関と回帰
- 11.人口静態統計（国勢調査）
- 12.人口動態統計(1)（出生、死亡、生命表）
- 13.人口動態統計(2)（死因）
- 14.演習
- 15.まとめ

成績の評価

筆記試験(80点)、受講態度(10%)、小テストまたは小レポート(10%)で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

前回の授業の復習をしっかりと行う。

履修上の注意

授業は講義を中心とするが、できる限り学生との対話形式で進めて行くので、積極的に課題に取り組むように期待しています。

テキスト

テキストは使用しません。授業時に資料を配付します。

参考資料

「基本からわかる看護統計学入門 第2版」(医師薬出版株式会社) 大木秀一 著

「やさしい保健統計学 第4版」(南江堂) 懸俊彦 著

「ナースのための統計学 第2版」(医学書院) 高木寛文 著

講義コード	2N369011
講義名	老年看護学実習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3412
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

岩井 恵子・森岡 朋子・川添 英利子（看護師）

目的

地域で生活する高齢者とのふれあいを通して、高齢者の多様なライフスタイルを理解し、高齢者にとってよりよい生活とは何かを考えることができる。

到達目標

1. 多様な人生経験を積んだ高齢者の人格と生命を尊重できる。
2. 加齢や疾病による身体的・精神的・社会的変化が理解できる。
3. 加齢や疾病が生活に及ぼす影響が理解できる。
4. 高齢者にとってよりよい生活とは何かを考えることができる。
5. 「和とどけ隊」活動、「和の会」を通してグループダイナミクスを学ぶ。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／協働する力

授業計画

1. 学内オリエンテーション
2. 「和とどけ隊」活動、「和の会」の準備（学内）
3. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者・デイサービスに通う高齢者とのふれ合い）
4. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者・デイサービスに通う高齢者とのふれ合い）
5. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者・デイサービスに通う高齢者とのふれ合い）
6. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者・デイサービスに通う高齢者とのふれ合い）
7. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者・デイサービスに通う高齢者とのふれ合い）
8. 地域シニアクラブ行事での活動（半日：熊取町煉瓦館）
9. 「和の会」の予行演習（熊取町煉瓦館で実施）
10. 「和の会」（熊取町煉瓦館で実施）
11. まとめ

*具体的な内容は「老年看護学実習Ⅰ実習要項」を参照する。

成績の評価

実習評価表（オリエンテーションで配布）で評価する（100%）。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

評価面談を行う。

自己学習

高齢者の特徴（身体的・精神的・社会的）を復習しておく。

テキスト

関係する講義等で使用したテキストを参照する。

参考資料

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井、森岡、川添：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室・授業用E-mail

岩井：5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

森岡：5号館7階C710号室

川添：5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp

講義コード	2N373011
講義名	老年期の健康と看護
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3401
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

岩井 恵子（看護師）

目的

超高齢社会の日本において、老年期をいかに過ごすかということは、個人にとっても社会にとっても重要な問題となってきた。単に高齢者を理解するにとどまらず、老年期というライフスタイルで捉えていく。

そこで、まず高齢者を理解し、さらに高齢者が直面する様々な問題を分析し、高齢者がよりよく生活するために必要なことを医療・保健・福祉対策も含めて考え、老年看護学が担う役割を理解する。

到達目標

1. 日本の高齢者の現状と社会問題、支える制度を理解する。
2. 高齢者を理解し、加齢による生活への影響を理解する。
3. 高齢者のQOLについて考えることができる。
4. 老年看護学が担う役割を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 老年看護学の必要性（高齢社会の現状を含む）
2. 老年期のライフスタイル（発達課題・生活）
3. 高齢者の生活機能（加齢が生活に及ぼす影響）
4. 高齢者の生活環境
5. 老年看護学の視点と倫理
6. 高齢者を支える制度
7. 高齢者のQOLとEnd of Life
8. Activityの必要性とその方法（補講期間に行う）

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、開示する。

自己学習

授業1コマについて2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

特に復習を充分行うようにする。

テキスト

「ナーシンググラフィカ 老年看護学(1)：高齢者の健康と障害」 (メディカ出版)

参考資料

高齢社会白書 (https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/30pdf_index.html)

その他、授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:20~13:00 メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

講義コード	2N405011
講義名	健康教育論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3410
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

室谷牧子〔保健師〕
 平尾恭子〔保健師〕
 西井崇之〔保健師〕

目的

個人、家族、集団または地域が直面している健康問題を解決するにあたり、自ら必要な知識を獲得して、必要な意志決定ができるよう、また、直面している問題に自ら積極的に取り組む実行力を身につけることができるよう支援する援助技術をPDCAサイクルに基づく健康教育の実践を通して理解を深める。

到達目標

- 1) 健康教育や健康学習に関する基礎理念を理解する。
- 2) 地域の健康課題を解決するためにPDCAサイクルに基づく健康教育（アセスメント、テーマ設定、指導案の作成、健康教育の実施、評価）の過程を展開することができる。
- 3) 対象の健康生活を支援する看護職の活動として、健康教育の意義を考察し述べることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス、健康教育の理論と方法
2. 事例の分析、健康課題の抽出、健康教育の企画：対象とテーマの決定
3. 健康教育の企画：指導案の作成
4. 健康教育の企画：教材・媒体の作成①
5. 健康教育の企画：教材・媒体の作成②
6. 健康教育の実施①
7. 健康教育の実施②
8. 健康教育の評価

成績の評価

評価は演習への取り組み度（グループワーク、媒体作成、健康教育の実際）30%、記録と成果物（事前学習・指導案・媒体・評価表・日々の記録・レポート）40%、小テスト30%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック
小テスト、レポートの解説を実施する。
自己学習
公衆衛生看護概論の学習内容を復習しておくこと。日常から社会のニュースに関心を持ち、自分なりに情報を整理しておく。事業の展開に合わせ必要な学習と作業を計画的に行うこと。自己学習の目安は1コマにつき2コマ(180分)である。
履修上の注意
この科目は保健師国家試験受験資格を得るために必要な選択科目である。
テキスト
「公衆衛生看護学.JP.第4版」(インターメディカル) (2年前期に購入) 「国民衛生の動向2018/2019」(厚生統計協会) (2年前期に購入) 適宜プリント配布
参考資料
参考図書は随時提示する。
オフィスアワー
12:10~13:00
研究室・授業用E-mail
5号館7階C709研究室muroya@kansai.ac.jp、(室谷) 5号館7階C711研究室kyo.hirao@kansai.ac.jp (平尾) 5号館7階C721研究室nishii@kansai.ac.jp (西井)

講義コード	2N454011
講義名	カウンセリング論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2303
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

狩野 真理〔臨床心理士・公認心理師・看護師〕

目的

臨床で心理学的な問題や症状を抱えた人々に対して、セラピストが行う専門的な心理カウンセリングの基礎的理解を行う。

「カウンセリング」については、単に「受容的に話を聴くこと」程度の意味で使われることも稀ではないが、この授業では、カウンセリングについての総論と、具体的な技法について、基本となる考え方を講義する。さらに、ロールプレイを通して、多忙な看護業務の中で用いることができる短時間で効果的なカウンセリング技術を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 「カウンセリング」について正しく理解し、心理学的問題を持っている人々への理解を深める。
2. 様々な技法を理解し、ロールプレイによって実践できる。
3. 看護場面を想定し、ロールプレイによる実践を繰り返すことによって、看護の場面にカウンセリングの技術を効果的に用いる事が出来る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／看護実践力

授業計画

1. オリエンテーション
2. カウンセリングとは何か
3. 基本的な関わり方：ジョイニング
4. 傾聴技法：受容と共感
5. 看護場面を想定
6. コンプリメント・リフレーミング
7. 解決志向アプローチ
8. 患者の状況別心理を理解する（1）
9. 患者の状況別心理を理解する（2）
10. 患者の状況別心理を理解する（3）
11. 対応に困る看護場面を想定（1）
12. アサーショントレーニング
13. 患者家族と対応する場面を想定（1）
14. 患者家族と対応する場面を想定（2）
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末レポート70%・授業内小レポート30%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

教務課において希望者にはレポートを開示します。

自己学習

講義・演習内容について日常生活の中で考え、実践してみてください。

履修上の注意

テーマに沿った内容のロールプレイとディスカッションを行います。積極的に取り組み、相互作用の中から多くのことを学び、身につけてください。

テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布します。

参考資料

- 「セラピスト入門 システムズアプローチへの招待」(日本評論社)
- 「ブリーフセラピーで切り抜ける 対人トラブル 即解決力」(日総研)
- 「ナースだからできる5分間カウンセリング」(医学書院)
- 「ナースが知りたい!患者さんの心理学」(西東社)
- 「ナースのためのアサーション」(金子書房)

オフィスアワー

木曜日12:30~13:00

講義コード	2N455011
講義名	ボランティア論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4401
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

室谷 牧子〔保健師・社会福祉士・元JICA-JOCV隊員〕
 小西 治子〔上級障がい者スポーツ指導員、ボランティアグループきょうりゅうクラブファウンダー〕
 浅井 康博〔社会福祉士〕
 大藪 拓郎〔社会福祉主事・介護福祉士〕

目的

ボランティアは特別な活動ではなく、私たちの生活を支える重要な活動である。本科目では、ボランティアの理念および沿革、ボランティア推進施策の現状を学ぶとともに、専門的な活動を経験してきた講師の講義からボランティア活動の実際を知り、ボランティアの現状と課題、今後の展開の可能性等について考える。

さらに、ボランティアの地域における価値とコーディネーターの役割を理解し、住民の主体的な社会参加を促進する意義について考える。

到達目標

地域社会におけるボランティアの役割および必要性とボランティアを支援する仕組みを理解し、自らの目標を持ち、ボランティア活動に取り組む力をつける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／協働する力

授業計画

1. ガイダンス 今、なぜ「ボランティアなのか」 室谷
2. ボランティアとは何か 小西
3. ボランティアの社会的変化、活動の現状と課題 小西
4. コミュニティにおけるボランティアの意義 室谷
5. 社会福祉協議会とボランティアコーディネーターの役割 浅井
6. 住民ボランティア活動の実際 室谷、熊取町ボランティア連絡会代表
7. 演習 関心があるボランティア活動の調査① 室谷
8. 演習 関心があるボランティア活動の調査② 室谷
9. NPOにおけるボランティア活動 小西
10. 障害がある人の生活とボランティア 小西
11. 被災地のボランティア活動 大藪
12. 国際ボランティア 地球市民の役割 室谷
13. 環境とボランティア 持続可能な社会に向けて 室谷
14. まとめ グループワーク 学びの可視化 室谷

15. まとめ プレゼンテーション やってみようボランティア 室谷

成績の評価

講義や演習の取り組み40%、日々のミニレポートとプレゼンテーションの成果物60%により総合的に評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する

自己学習

日常からボランティアに関するニュースや情報を収集し、自分なりに解釈してください。授業で学んだこと、演習での取り組みを自分なりに社会人としてどう生かすかを常に考えるよう、日々学習してください。自己学習の目安は授業¹コマにつき、2コマ(180分)です。

テキスト

プリント配布

参考資料

「社会に貢献する」日本ファンドレイジング協会
「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会
「ボランティアのすすめ—基礎から実践まで(実践のすすめ)」ミネルヴァ書房

オフィスアワー

昼休み(12:10~13:00)

研究室・授業用E-mail

5号館7階C709研究室(室谷)
muroya@kansai.ac.jp

講義コード	2N456011
講義名	ライフサイクルと保健活動
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3411
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平尾恭子〔保健師〕
 室谷牧子〔保健師〕
 西井崇之〔保健師〕

目的

母子および成人、高齢者の各ライフサイクルにおける健康課題と健康課題を解決するための保健福祉施策および法令・制度について理解するとともに、保健活動の実際について学び、看護職の役割を考察する力を養う。

到達目標

1. 母子、成人、高齢者の健康課題を理解する。
2. 母子、成人、高齢者の健康と生活に関わる法令、制度について知る。
3. 母子、成人、高齢者に対する地域保健活動の実際を理解する。
4. 地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス、母子保健の動向（平尾）
2. 乳幼児の発達と子育て支援（平尾）
3. 妊娠期の健康課題と保健活動（平尾）
4. 乳児期の健康課題と保健活動（西井）
5. 幼児期の健康課題と保健活動（西井）
6. 児童虐待と保健活動（平尾）
7. 地域における子育て支援の実際①（平尾、室谷、西井）
8. 地域における子育て支援の実際②（平尾、室谷、西井）
9. 生活習慣病の予防と保健活動①（室谷）
10. 生活習慣病の予防と保健活動②（室谷）
11. 健康診査と支援の展開（室谷）
12. 高齢社会の現状と健康課題（室谷）
13. 介護予防と保健活動（室谷）
14. 人々の暮らしを支える看護の多様性（室谷）
15. 地域包括ケアシステム構築における地域看護職の役割（室谷）

成績の評価

80

10

10

試験 %、レポート %、授業への取り組み度 %
定期試験、レポート等に対するフィードバック
定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。
自己学習
<p>授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。 特に、下記内容の理解を深めておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の理念、公衆衛生看護の活動方法および技術 2. 母子、成人、高齢者のライフサイクルの特徴と発達課題 3. 母子、成人、高齢者に関連する主要な疾患 4. 母子、成人、高齢者に関わる法令、制度 <p>その他、講義で配布したプリントは必ず次回までに精読しておく。</p>
テキスト
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「最新公衆衛生看護学 各論1 3版 2019年版」(日本看護協会出版会) 2. 「国民衛生の動向2018/2019」(厚生統計協会)
参考資料
適宜紹介する
オフィスアワー
<p>平尾恭子 水曜日12:10～13:00 室谷牧子 水曜日12:10～13:00 西井崇之 水曜日12:10～13:00</p>
研究室・授業用E-mail
<p>平尾：5号館7階C711研究室、kyo.hirao@kansai.ac.jp 室谷：5号館7階C709研究室、muroya@kansai.ac.jp 西井：5号館7階C721研究室、nishii@kansai.ac.jp</p>

講義コード	2N457011
講義名	在宅看護方法論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3406
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 前久保 恵	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

上坂 智子〔看護師〕・鹿島 英子〔看護師〕・前久保 恵〔看護師〕

目的

『在宅療養と看護』で学んだ在宅看護の理念と対象理解を踏まえて、在宅看護の対象（人と家族）が地域社会の中で生きることが困難にしている病や障がいを理解し、尊厳をもって自らの望む場所で暮らす（生きる）ことを支える在宅看護の看護実践について学ぶ。

具体的には、対象のライフサイクルに添ったケアであることを前提に、地域社会システムの中で生きている対象の多様化するライフニーズに対してそのアセスメント能力を養い、在宅生活における健康ニーズを中心とした日常生活援助について必要な実践能力の基礎を形成する。

到達目標

対象のライフサイクルに添ったケアであることを前提に

1. 地域社会システムの中で生きている対象の多様なライフニーズと在宅生活における健康ニーズをアセスメントするための知識と考え方を修得する。
2. 在宅生活における健康ニーズを中心とした日常生活援助について理解し、必要な知識と技術を修得する。
3. 社会資源の活用や関係者の連携・協働が在宅療養の継続を支えていることを理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. ガイダンス. 在宅療養生活継続のためのセルフケアの支援（前久保）
2. 日常生活を支える援助：排泄の援助①（鹿島）
3. 日常生活を支える援助：排泄の援助②（鹿島）
4. 訪問看護の実際（ゲストスピーカー）（前久保）
5. 日常生活を支える援助：排泄の援助③（鹿島）
6. 日常生活を支える援助：食事・栄養の援助①（前久保）
7. 日常生活を支える援助：食事・栄養の援助②在宅経管栄養法（前久保）
8. 日常生活を支える援助：食事・栄養の援助③在宅中心静脈栄養法（前久保）
9. 日常生活を支える援助：清潔保持への援助（上坂）
10. 日常生活を支える援助：移動・活動の援助（上坂）
11. 日常生活を支える援助：事例を通して日常生活を考える（上坂）
12. 事例を通して日常生活援助を考える他（演習）（前久保・上坂・鹿島）
13. 事例を通して日常生活援助を考える他（演習）（前久保・上坂・鹿島）
14. 日常生活を支える援助：服薬の援助（前久保）

15. 日常生活を支える援助：感染予防と感染時の援助・訪問看護ステーションにおける災害対策と対応（上坂）

成績の評価

筆記試験 90%・演習への取り組み度（レポート） 10% を総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと

テキスト

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論① 地域療養を支えるケア」（メディカ出版）
*『在宅療養と看護』で購入済

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」（メディカ出版）

参考資料

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

前久保 恵 月曜日 12:10～13:10

上坂 智子 月曜日 12:10～13:10

鹿島 英子 月曜日 12:10～13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C706研究室（前久保） maekubo@kansai.ac.jp

5号館7階C713研究室（上坂） uesaka@kansai.ac.jp

5号館7階C710研究室（鹿島） kashima@kansai.ac.jp

講義コード	2N458011
講義名	在宅療養と看護
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3405
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 前久保 恵	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

前久保 恵〔看護師〕

目的

人と家族が地域社会の中で生きることを困難にしている病や障がいを理解し、尊厳をもって自らの望む場所で暮らす（生きる）ことを支える在宅看護の理念と看護について学ぶ。

具体的には、対象である人と家族を理解し、人々の多様な生き方を理解する。また、在宅看護や在宅ケアシステムを継続的包括的視点で捉え、対象が地域社会システムの中で生きることを支える制度や社会資源とその活用について理解する。さらに地域包括ケアシステムにおける連携の要となつて、コミュニティーケア力を育み対象の生活を支える看護職の機能について考察する。

到達目標

- 1.在宅看護の概念・基本理念を理解する。
- 2.在宅看護の対象を理解する。
- 3.訪問看護について理解する。
- 4.対象の生活を支える在宅看護制度やケアシステムについて理解する。
- 5.在宅ケアを支える制度・社会資源とその活用および地域包括ケアシステムにおける連携とマネジメントについて理解する
- 6.対象の生活を支えるコミュニティーケア力を育む看護職の機能について考察する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

- 1.オリエンテーション／在宅看護の基本理念／在宅看護の対象と背景
- 2.在宅看護の対象の理解
- 3.対象者と家族の理解①
- 4.対象者と家族の理解②
- 5.在宅ケアを支える制度と社会資源
- 6.地域包括ケアシステムにおける在宅看護
- 7.対象者と家族を支える訪問看護
- 8.地域包括ケアシステムにおける連携とマネジメント

成績の評価

90

10

定期試験 %、課題レポート %で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと

テキスト

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論① 地域療養を支えるケア」(メディカ出版)

参考資料

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

前久保恵 月曜日12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C706研究室 (前久保) maekubo@kansai.ac.jp

講義コード	2N459011
講義名	老年看護方法論ⅡA
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学分野
科目ナンバリング	N2-3403
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川添 英利子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川添 英利子 岩井 恵子 森岡 朋子 櫻井 昌子〔看護師〕

目的

老年看護は日常生活の機能低下を防ぐこと、疾患や加齢による心身機能の影響を考慮し看護を実践することが重要である。そのため、高齢者への生活支援の必要性とその方法を考え、実践することができることを目的とする。

到達目標

1. 高齢者と円滑にコミュニケーションをとることができる。
2. 高齢者における安全、かつ安楽な移動について考え実践できる。
3. 高齢者における安全、かつ美味しく食べるための口腔ケアについて考え実践できる。
4. QOLを高める高齢者の食事について考え実践できる。
5. 高齢者における安全な更衣と衣類の選択について考え実践できる。
6. QOLを高める高齢者の排泄について考え実践できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／看護実践力

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション（SP*を用いた演習）（岩井、櫻井）
2. 高齢者とのコミュニケーション（SP*を用いた演習）（岩井、櫻井）
3. 高齢者とのコミュニケーション振り返り（岩井、櫻井）
4. 高齢者疑似体験（川添）
5. 日常生活における高齢者の動作を科学する（川添）
6. 高齢者を持ち上げない移動介助（川添）
7. 高齢者を持ち上げない移動介助（補助具の使用を含む）（川添）
8. 高齢者が美味しく食べるための口腔ケア（川添）
9. 五感に働きかける食事介助の工夫を考える（川添）
10. 安全な食事のための姿勢を考える（川添）
11. 高齢者における移動と食事のリフレクション（川添）
12. 高齢者に負担のない更衣と衣類を考える（森岡）
13. もれないおむつの当て方を考える（森岡）
14. 日常生活を豊かにするおむつの使い方を考える（森岡）
15. 高齢者における更衣と排泄のリフレクション（森岡）

成績の評価

10

40

50

演習への取り組み度 %、小テストあるいはレポート %、定期試験 %により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験答案を開示する。
レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこととする。

参考資料

演習の中で適宜資料配布、テキスト紹介する。

オフィスアワー

川添：水曜日12：30～13：00メールで事前に連絡をいただければその他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp（川添 英利子）

講義コード	2N459012
講義名	老年看護方法論ⅡB
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3403
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川添 英利子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川添 英利子 岩井 恵子 森岡 朋子 櫻井 昌子〔看護師〕

目的

老年看護は日常生活の機能低下を防ぐこと、疾患や加齢による心身機能の影響を考慮し看護を実践することが重要である。そのため、高齢者への生活支援の必要性とその方法を考え、実践することができることを目的とする。

到達目標

1. 高齢者と円滑にコミュニケーションをとることができる。
2. 高齢者における安全、かつ安楽な移動について考え実践できる。
3. 高齢者における安全、かつ美味しく食べるための口腔ケアについて考え実践できる。
4. QOLを高める高齢者の食事について考え実践できる。
5. 高齢者における安全な更衣と衣類の選択について考え実践できる。
6. QOLを高める高齢者の排泄について考え実践できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／看護実践力

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション（SP*を用いた演習）（岩井、櫻井）
2. 高齢者とのコミュニケーション（SP*を用いた演習）（岩井、櫻井）
3. 高齢者とのコミュニケーション振り返り（岩井、櫻井）
4. 高齢者疑似体験（川添）
5. 日常生活における高齢者の動作を科学する（川添）
6. 高齢者を持ち上げない移動介助（川添）
7. 高齢者を持ち上げない移動介助（補助具の使用を含む）（川添）
8. 高齢者が美味しく食べるための口腔ケア（川添）
9. 五感に働きかける食事介助の工夫を考える（川添）
10. 安全な食事のための姿勢を考える（川添）
11. 高齢者における移動と食事のリフレクション（川添）
12. 高齢者に負担のない更衣と衣類を考える（森岡）
13. もれないおむつの当て方を考える（森岡）
14. 日常生活を豊かにするおむつの使い方を考える（森岡）
15. 高齢者における更衣と排泄のリフレクション（森岡）

成績の評価

10

40

50

演習への取り組み度 %、小テストあるいはレポート %、定期試験 %により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験答案を開示する。
レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこととする。

参考資料

演習の中で適宜資料配布、テキスト紹介する。

オフィスアワー

川添：水曜日12：30～13：00メールで事前に連絡をいただければその他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp（川添 英利子）

講義コード	2N460011
講義名	老年看護方法論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3402
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

岩井 恵子 森岡 朋子 川添 英利子（看護師）

目的

老年期の健康障害の特徴と生活への影響を理解し、QOLの向上を目指した看護を導き出すための知識を修得する。

到達目標

1. ICFの概念を理解する。
2. 高齢者とのコミュニケーションのための知識を修得する。
3. 老年期の健康障害が生活に及ぼす影響とその看護を見出すことができる。
4. 介護保険の運用方法が理解できる。
5. 退院支援の必要性とその方法を理解することができる。
6. 高齢者のEnd of Life Careについて理解することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション（岩井）
2. ICFの考え方とその使い方（岩井）
3. 活動と休息を支える看護（岩井）
4. 歩行・移動を支える看護（川添）
5. 食生活を支える看護（川添）
6. 4・5のまとめ（川添）
7. 排泄を支える看護（森岡）
8. 清潔・衣生活を保つための看護（森岡）
9. 7・8のまとめ（森岡）
10. 精神障害のある高齢者の看護（岩井）
11. 治療を受ける高齢者の看護（川添）
12. 介護保険サービスとその使い方（森岡・櫻井）
13. 退院支援とチーム医療（森岡）
14. 終末期の看護（岩井）
15. End of Life Care（岩井）

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

ナーシング・グラフィカ

「老年看護学（1）：高齢者の健康と障害」（メディカ出版）

「老年看護学（2）：高齢者看護の実践」（メディカ出版）

参考資料

授業の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井、森岡、川添：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければその他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

岩井：5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

森岡：5号館7階C 号室 @kansai.ac.jp

川添：5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp

講義コード	2N461011
講義名	成人看護方法論Ⅱ（急性期）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3303
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

神戸美輪子〔看護師〕
 兒嶋章仁〔看護師〕
 阿部香織〔看護師〕

目的

健康状態が急激に変化し、生命危機にある対象者とその家族の身体的、心理的、社会的特徴について理解する。またその特徴を踏まえた、看護を提供するための基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 急性期から回復期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を述べるができる。
2. 周手術期の各期の特徴と具体的な看護を述べるができる。
3. 看護過程を通じて対象に応じた看護実践について考えることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 救急医療の現状と急性期看護 緊急性と重症度のアセスメント（神戸）
2. 救急でみられる代表的な病態（ショック・外傷）（神戸）
3. 救急でみられる代表的な病態（熱傷・熱中症）（神戸）
4. 救急でみられる代表的な病態（中毒・意識障害）（神戸）
5. 心肺蘇生状態の対応（過換気・窒息含む）（阿部）
6. 急性期患者の症状と看護（兒嶋）
7. 術前準備・不安のアセスメントと援助・術前評価（兒嶋）
8. 麻酔と手術体位とその影響、手術方法、術中安全（兒嶋）
9. 術後合併症のリスクマネジメント（阿部）
10. 術後合併症と管理、術後疼痛（阿部）
11. 早期回復促進への援助（阿部）
12. 術後合併症の予防、早期離床（阿部）
13. 術後の機能障害と生活制限への援助（兒嶋）
14. 全身麻酔下で手術を受けた患者への看護・術後の合併症を考える①（神戸）
15. 全身麻酔下で手術を受けた患者への看護・術後の合併症を考える②（神戸）

成績の評価

試験80%、レポート課題等20%、総合的に判断する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。予習では既習の解剖生理学・基礎看護学などを活用し、復習では各回の重要ポイントの理解を深めるよう取り組む。

テキスト

「周手術期看護論2013」（ヌーヴェルヒロカワ）

「臨床外科看護総論」（医学書院）

「成人看護技術」（南江堂）

参考資料

1. 講義から実習へ 周手術期看護1・2・3・4・5 編著 医歯薬出版株式会社 2009
2. エキスパートナース Mook36 まんがで見る術前・術後のケアのポイント、照林社, 2010
3. アセスメントに使える 疾患と看護の知識, 照林社, 2016.

オフィスアワー

水曜日 12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階 714研究室

kanbe@kansai.ac.jp

講義コード	2N462011
講義名	成人看護方法論Ⅰ（慢性期）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3302
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉井 輝子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

吉井 輝子〔看護師〕
 今井 幸子〔看護師〕
 外部講師〔看護師〕

目的

慢性的な健康障害をもち、生涯にわたり生活をコントロールしていく必要がある対象者について、成人期にある人々の特性をふまえて、身体的・心理的・社会的特徴を総合的に理解する。また、対象者がセルフケアを行い生活を維持するとともに、急性増悪の予防が行えるために必要な看護支援の基礎的知識・技術を学ぶ。

到達目標

1. 慢性的な健康障害をもつ対象およびその家族の、身体的・心理的・社会的特徴および健康問題を理解する。
2. 疾病認識と自己管理の状況、検査値等からセルフケアの現状と課題をアセスメントできる。
3. 慢性疾患を抱える人への支援の基盤となる諸理論・概念について理解できる。
4. 慢性的な健康障害を持った対象に必要なとされる看護支援の特徴について理解する。
5. 慢性的な健康障害の急性増悪期の誘因を理解し、予防的に対応するための看護支援について理解する。

授業計画表

成人看護方法論Ⅰ（慢性期）

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 慢性期看護の特徴とその看護（吉井）
2. セルフケア・自己管理支援（吉井）
3. 糖尿病をもつ患者の看護（今井）
4. 膠原病をもつ患者の看護（SLE）（今井）
5. 呼吸機能障害のある患者の看護（肺炎・COPD）（吉井）
6. 呼吸機能障害のある患者の看護（肺炎・COPD）（吉井）
7. 循環器障害のある患者の看護（心不全）（今井）
8. 循環器障害のある患者の看護（心不全）（外部講師）
9. 消化機能障害のある患者の看護（上部消化管疾患）（今井）
10. 消化機能障害のある患者の看護（下部消化管疾患）（今井）
11. 慢性腎炎・腎不全をもつ患者の看護（外部講師）

12. 消化機能障害のある患者の看護（胆のう炎・膵炎）（吉井）
13. 消化機能障害のある患者の看護（肝炎・肝硬変）（吉井）
14. がんをもつ患者の看護（肝がん・TACE）（吉井）
15. 退院支援・社会的支援の獲得への援助（吉井）

成績の評価

筆記試験 90%、小テスト 10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

解剖学・生理学、疾病論など、既習の学習内容を基に授業を展開するため、授業¹コマにつき90分相当の予習・復習などを行い授業に臨むこと。

テキスト

系統看護学講座 成人看護学 2（呼吸器疾患）、3（循環器疾患）、4（血液・造血器疾患）、5（消化器疾患）、6（内分泌・代謝疾患）8（腎・泌尿器疾患）、11（アレルギー・膠原病・感染症疾患）、別冊 がん看護学（医学書院）

*テキストは、系統別看護学講座 成人看護学 1～8、11および部冊のうち、各講義に該当するものを持参すること。

オフィスアワー

質問などがある場合は、該当する教員にメールで連絡してください。

吉井：水曜日：12:10-13:00

不在のこともありますので、できるだけ前もって連絡をお願いします。

上記以外の時間帯も連絡してもらえると可能な日時を相談します。

研究室・授業用E-mail

（吉井）5号館7階 717研究室 yoshii@kansai.ac.jp

講義コード	2N463011
講義名	小児看護方法論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学分野
科目ナンバリング	N2-3206
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

津島和美(看護師) 三浦美知代(看護師)

目的

小児看護の対象は、健康状態の健康、不健康問わずすべての小児である。子どもが健やかに成長発達を遂げるためには、子どもの成長発達段階や発達段階に応じた支援が必要となる。この科目では、子どもの成長発達過程と発達課題に応じた必要な支援内容と方法をその根拠とともに学修する。

到達目標

1. 成長発達に応じた生活他の支援を根拠に基づいて述べるができる。
2. 成長発達に応じた生活他の支援に関する支援技術を実践することができる。
3. 発達課題をふまえた子どもの自己表現を理解することができる。
4. 子どもの権利および子どもを取り巻く社会状況の特徴を述べるができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 小児看護の役割
2. 子どもの成長発達と社会性
3. 子どもの成長発達とセルフケア①
4. 子どもの成長発達とセルフケア②
5. 子どもの成長発達とセルフケア③
6. 子どもの成長発達とセルフケア④
7. 症状をもつ子ども子どものセルフケア①
8. 成長発達、病状をに応じたえ日常生活支援演習
9. 成長発達、病状をに応じたえ日常生活支援演習
10. 発達課題と子どもの理解のためのコミュニケーション技術①
11. 発達課題と子どもの理解のためのコミュニケーション技術②
12. 発達障がいをもつ子どもの理解とコミュニケーション
13. 子どもの権利と小児看護
14. 子どもとプレパレーション
15. 子どもの救急処置が必要な状況と対処

成績の評価

定期試験(95%) 授業への取り組み(5%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「系統看護学講座 専門分野II 小児看護①」 (医学書院)

「小児看護実習ガイド」 (照林社)

オフィスアワー

火曜日 16:00~18:00

研究室・授業用E-mail

C704研究室 tushima@kansai.ac.jp (津島)

講義コード	2N464011
講義名	子育て支援論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4403
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

平尾恭子〔保健師〕

目的

わが国の子育て支援の動向を知り、子育て支援に必要なコミュニケーションスキルおよび地域の子育て支援サービスについて理解するとともに、児童虐待における看護職の役割について考察する力を養う。

到達目標

1. わが国の子育て支援の動向および子育ての理念について理解する
2. 子どもおよび子育て支援に必要なコミュニケーションスキルについて理解する
3. 地域の子育て支援サービスについて理解する
4. 事例を通して児童虐待における関係機関の連携と看護職の役割について考察する

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

看護実践力／自己研鑽力

授業計画

1. ガイダンス、子育ての動向
2. しつけと体罰
3. 子どもとよい関係を築くコミュニケーションスキル
4. 親を支援するコミュニケーションスキル
5. 児童虐待と子どもへの影響
6. 事例を通して児童虐待を考える①
7. 事例を通して児童虐待を考える②

成績の評価

試験70%、レポート20%、授業への取り組み度10%とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
乳幼児の発育・発達、母子保健について復習しておくこと。

履修上の注意

保健師課程の選択科目ですが、子どもおよび親支援は看護師にとっても必要となるため、保健師

課程に関わらず、ぜひ履修してください。

テキスト

プリントを配布する

参考資料

随時、提示する。

オフィスアワー

水曜12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C711研究室・kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	2N465011
講義名	基礎看護技術論Ⅲ（診療の補助技術）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N2-3107
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松下 直子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

松下直子[看護師]、中納美智保[看護師]、堀本知春[看護師]

目的

看護師の役割のひとつである診療の補助技術を学修する。この科目では、治療や検査を必要としている対象者の心理を理解し、対象者が安全で安楽に治療や検査を受けることができるための基本的知識と看護技術を修得することが目的である。

到達目標

1. 診療の補助技術に必要な呼吸・循環、感染予防、検査に関する基本的知識を理解する
2. 呼吸・循環を整える酸素吸入療法、口腔内吸引についての基本的技術が習得できる
3. 無菌操作を用いて一時的導尿が実施できる
4. 無菌操作、検体の取り扱いに関する知識を用いて静脈血採血が実施できる
5. 演習を通して看護実践を支える倫理的な姿勢や態度を養う

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 診療の補助技術と看護の役割
2. 酸素療法に関する基本的知識
3. 口腔内吸引に関する基本的知識
4. 酸素療法・口腔内吸引（演習）
5. 感染予防に関する基本的知識
6. 無菌操作・滅菌手袋(演習)
7. 一時的導尿・尿道留置カテーテルに関する基本的知識
8. 一時的導尿（演習）
9. 生体検査の基本的知識と看護師の役割
10. 検体検査の基本的知識と看護師の役割
11. 静脈血採血（演習）
12. 与薬に関する基本的知識①
13. 与薬に関する基本的知識②
14. 様々な状況にある患者の診療の補助技術①
15. 様々な状況にある患者の診療の補助技術②

成績の評価

筆記試験80%、授業への取り組み度20%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1. 「看護がみえるvol.1 基礎看護技術」（メディックメディア）
2. 「看護がみえるvol.2 臨床看護技術」（メディックメディア）
3. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」（医学書院）
4. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」（医学書院）
（3,4はともに1年次購入したもの）

参考資料

授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日12:00~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C716

E-mail:matsushita@kansai.ac.jp

講義コード	2N466011
講義名	精神看護方法論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3308
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川端 明雄〔看護師〕、和田 幸子〔看護師〕

目的

心を病む人々がリカバリーできるような看護に向けて、精神看護の基盤となる考え方、精神症状とその障害、薬物療法・精神療法・精神科リハビリテーション、リスクマネジメントなどを理解する。心を病む人々のセルフケアを支援するための看護と、患者・看護師関係の発展過程や治療的かわりを省察する意義と方法を理解する。

到達目標

1. 精神看護に役立つ理論、モデルの知識を得る。
2. 援助過程を省察するための意義と方法を理解する。
3. 心を病む人々のセルフケアを高める各種治療、看護を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 精神看護の基盤となる考え方（和田）
2. 援助関係の構築・プロセスレコードの活用（和田）
3. 精神症状の捉え方・精神症状の理解（和田）
4. 精神看護に関連するコミュニケーション（和田）
5. 精神症状とその障害①（和田）
6. 精神症状とその障害②（和田）
7. ロールプレイに基づく検討（拒絶場面）（和田）
8. 精神療法（個人と集団）、認知行動療法、（川端）
9. セルフケアへの援助（日常生活支援）①（和田）
10. セルフケアへの援助（日常生活支援）②（和田）
11. 薬物療法の意味と看護の役割（川端）
12. 各種薬物の作用機序と副作用（川端）
13. 社会参加への働きかけ、精神科リハビリテーション、SST（和田）
14. 入院形態と精神科病棟の環境（外部講師）
15. 精神障害をもつ人への安全管理（セーフティマネジメント）（和田）

成績の評価

定期試験による評価を行なう。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり(改訂第2版)」(南江堂)

「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア(改訂第2版)」(南江堂)

参考資料

講義中に適宜紹介

オフィスアワー

金曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室 s.wada@kansai.ac.jp (和田)

5号館7階C721研究室 kawabata@kansai.ac.jp (川端)

講義コード	2N467011
講義名	食生活と健康
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2302
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

黒木 知美（栄養士、管理栄養士）

目的

看護の対象となるあらゆる人々の健康保持・増進・回復のために健全な食生活を営むことができるように援助するための専門的な知識と実践力を身につける。

到達目標

各栄養素を多く含む食品の知識を習得し、病態と栄養の関連性について理解することを目的とする。病院での医師、薬剤師、栄養士などの専門職種とのチーム医療の一環として必要な知識について理解を深めることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. ガイダンス
2. 栄養と栄養素について
3. 日本人の食事摂取基準について
4. 臨床栄養 糖尿病
5. 臨床栄養 糖尿病
6. 臨床栄養 糖尿病
7. 自身の食生活の分析・事例紹介
8. 臨床栄養 高血圧
9. 臨床栄養 脂質異常症
10. 臨床栄養 腎疾患
11. 臨床栄養 腎疾患（人工透析）
12. NSTについて
13. ライフステージ別食生活
子どもの「食べる力」をはぐくむことへの支援・食育について
14. ライフステージ別食生活
高齢者の「食生活を支えること」への支援・患者の自己実現を援助
15. まとめ

成績の評価

試験（60％） 授業への取り組み度（10％） レポート（30％）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめておくこと。

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

「7訂 日本食品標準成分表」

「第7版 糖尿病食事療法のための食品交換表」

オフィスアワー

月曜日 10:30-12:30（看護棟5階 講師控室）

講義コード	2N468011
講義名	看護とくすり
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2207
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 町谷 安紀	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

町谷 安紀（薬剤師）

目的

看護師が日常業務の中で薬を取り扱う場面は非常に多い。また医療事故の多くは、薬剤が関連している。

講義では、体の機能を理解した上で、薬について基礎教育の段階でしっかりと学び、将来の看護の質の向上及び薬物治療についての知識の習得を目的とする。

到達目標

1. 薬の取り扱いについて理解できる。
2. 薬の薬物動態について理解できる。
3. 疾患と薬物治療について関連付け、薬の理解と適切な取り扱いができる。
4. 看護における薬物治療の流れを理解し、治療経過の評価及び副作用を把握し、アセスメントできる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

【講義内容】

- 第1回 第1章 薬の特徴と体の関わり（前半）
- 第2回 第1章 薬の特徴と体の関わり（後半）
- 第3回 第2章 神経の疾患と治療（前半）
- 第4回 第2章 神経の疾患と治療（後半）
- 第5回 第3章 心臓と血液と尿に関連する疾患と治療（前半）
- 第6回 第3章 心臓と血液と尿に関連する疾患と治療（後半）
- 第7回 第4章 微量だが体内で重要な役割を果たす物質と関連する疾患（前半）
- 第8回 第4章 微量だが体内で重要な役割を果たす物質と関連する疾患（後半）
- 第9回 第5章 気管（支）や肺に関連する疾患と治療
- 第9回 第6章 消化管に関連する疾患と治療
- 第9回 第7章 肝臓・胆管系・すい臓に関連する疾患と治療
- 第10回 第8章 体外からの防御のしくみ（前半）
- 第11回 第8章 体外からの防御のしくみ（後半）
- 第11回 第9章 がん（悪性新生物）と治療（前半）
- 第12回 第9章 がん（悪性新生物）と治療（後半）
- 第13回 第10章 感染症と治療（前半）+感染症と治療（抗菌薬もう一步）

第14回 第10章 感染症と治療（後半）

第15回 第11章 その他の各器官に関連する疾患と治療

成績の評価

試験70%・毎回講義前に実施する小テスト30%

（追試験・再試験に関しては、小テストの点数を考慮せず、試験100%とする。）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を掲示する。

自己学習

生体機能や病態の説明を行い、薬理の内容を説明するが、テキストを一読し、予習すること（30分）。

また、講義後は学習内容を30分復習し、講義前の確認試験に備えること。

テキスト

イラストで理解する かみくだき薬理学（南山堂）

参考資料

授業内で適宜紹介する

オフィスアワー

講義前の8:30～9:00

研究室・授業用E-mail

5号館5階 講師控室

講義コード	2N469011
講義名	看護にいかず疾病論Ⅴ（老年）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2206
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 森岡 朋子	指定なし
教員	岩井 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

畑村 育次〔医師〕・紀平 為子〔医師〕・森岡 朋子〔看護師〕

目的

高齢化率27%超の我が国において、高齢者の加齢による変化や疾患を理解することは不可欠である。そこでこの講義では、加齢による心身の変化、高齢者に特徴的な病態や疾患、また認知症の症状と生活に及ぼす影響について理解することを目的とする。

到達目標

1. 加齢に伴う身体的・精神的変化を説明できる。
2. 高齢者に多い疾患の、病態・診断・治療が理解できる。
3. 認知症について説明できる。
4. 認知症が生活に及ぼす影響が説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 加齢・老化とは（高齢者の特徴を含む）（畑村）
2. パーキンソン病（紀平）
3. 脳梗塞（紀平）
4. 心・血管系と加齢及び疾患（畑村）
5. 腎・泌尿器と加齢及び疾患（畑村）
6. 認知症の病態・要因・評価法（紀平）
7. せん妄（紀平）
8. 呼吸器と加齢及び疾患（畑村）
9. 骨・筋肉（運動器）と加齢及び疾患（畑村）
10. 認知症の中核症状とBPSD（森岡）
11. 認知症が生活に及ぼす影響（森岡）
12. 消化器と加齢及び疾患（畑村）
13. 畑村担当の6回分の模擬試験（畑村）
14. 事例で学ぶ認知症（コミュニケーション）（森岡）
15. 事例で学ぶ認知症（BPSDの対応）（森岡）

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

講義内で適宜紹介する。

オフィスアワー

森岡：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ他の日時でも調整可。

畑村：木曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ他の日時でも調整可。

紀平：木曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階 研究室（森岡）

診療・研究棟4階402研究室（畑村） i-hatamura@kansai.ac.jp

診療・研究棟4階408研究室（紀平） tkihira815@kansai.ac.jp

講義コード	2N470011
講義名	看護にいかす疾病論Ⅳ（母性・小児）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2205
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 矢本 希夫	指定なし
非常勤	原田 智	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

（母性）矢本 希夫〔医師〕
（小児）原田 智・宮下 律子・中西 直之・木岡 直美・栗並 樹里〔医師〕

目的

（母性）本科目では、先ず女性の生殖機能の基本的な概念、すなわち排卵や月経がどのようにして起こるのか、卵巣ホルモンの女性の心身に及ぼす影響などについての理解を深めるとともに、代表的な婦人科疾患や正常妊娠・分娩の経過とその異常などの基本的知識を学ぶことを目的とする。
（小児）小児の特徴は成長と発達である。小児の特性を考慮し、小児特徴的な疾患について臓器別に病態、治療を学習する。

到達目標

（母性）看護師、保健師、助産師として、女性の生殖機能や代表的な疾患等を理解することで、女性の患者様に対して適切に対応できることを目標とする。
（小児）1.成長と発達を理解する。2.小児の特徴的な疾患について病態を説明できる。3.疾病の予防、治療、生活指導を説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

（母性）
1. 女性生殖器の局所解剖と生理
排卵と卵巣ホルモン、子宮内膜の周期性と月経
2. 月経異常の診断と治療；
無月経、無排卵症、月経困難症、月経前緊張症、更年期障害
3. 骨盤内の炎症および性感染症
4. 代表的な婦人科良性疾患；子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍
5. 代表的な婦人科悪性疾患；子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん
6. 不妊症と避妊について
7. 正常妊娠と正常分娩・産褥の経過
8. 異常妊娠と異常分娩・産褥の概論
（小児）
1.10/17 成長と発達、新生児、先天異常（原田）
2.10/24 神経疾患（木岡）

3.10/31 感染症・呼吸器疾患（中西）
4.11/7 消化器（中西）
5.11/14 免疫・アレルギー性疾患（原田）
6.11/21 代謝性・内分泌疾患（宮下）
7.11/28 悪性新生物、血液・造血器疾患（宮下）
8.12/5 循環器・腎疾患（栗並）

成績の評価

（母性）筆記試験および平常点。

（小児）筆記試験の成績を重視する。但し、レポート提出等を含め総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

履修上の注意

（母性）学期末筆記試験と出席で総合評価する。

（小児）講義では、臨床状況を設定した内容まで行う。十分な事前学習が必要である。

テキスト

（母性）「母性看護実践の基本」（メデイカ出版）

（小児）「系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2」（医学書院）

講義コード	2N471011
講義名	看護にいかず疾病論Ⅲ（精神）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2204
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 郭 哲次	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

郭 哲次 （医師）

目的

精神疾患は原因不明の疾病が多く、疾病の表現形態も罹る個人によって多様である。我々は、診断された精神の病気自体を理解し、患者自身の困難を本当に意味で了解するのは容易ではない。こうした意味で精神科看護にあたる場合に、精神科看護で必須となる精神疾患・病態の知識を身に付け、病を持つ患者に対する態度、最善の援助法を考え学習することを目的とする。個別の学習目標としては、患者の置かれている状況から、困難や葛藤がどこにあるかを見出すことができること、精神障害の予防や危機介入の方法、障害が疑われる人の診察、診断方法が如何になされているかについて理解できること。主な精神障害の、分類、疫学、成因、病態、症状と経過、治療の概要を理解することができることなどである。

到達目標

一般看護および精神科看護に欠かせない基本的な精神疾患について十分に理解し、臨床実習において利用可能な知識として身につける

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 総論① …… 予備知識として精神疾患の基礎知識を概観する
2. 総論② (P2～77) 教科書
3. 総論③ (P2～77)
4. 統合失調症（内因性）① (P80～152)
5. 統合失調症（内因性）② (P80～152)
6. 躁うつ病（内因性）① (P154～172)
7. 躁うつ病（内因性）② (P154～172)
8. 神経症（心因性）① (P174～224)
9. 神経症（心因性）② (P174～224)
10. 中間まとめ
11. 外因性精神障害①（概念） (P236～278)
12. 外因性精神障害②（各論） (P236～278)
13. 外因性精神障害③（各論） (P236～278)
14. 外因性精神障害④（各論） (P236～278)
15. 総まとめ

成績の評価

最終試験80%、授業への取り組み20% (受講態度減点対象)
定期試験、レポート等に対するフィードバック
定期試験終了後に、模範解答を提示する
自己学習
教科書を用いて予習・復習を行うこと 授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと (書き込み等により教科書自体を自分用にカスタマイズしてゆくこと)
履修上の注意
この領域の予備知識や体験なく、未知の精神疾患を正しく捉えることは容易ではない。 教科書として使用するテキストは初学者にとっては比較的難解であるため事前に読んでその意味を 考えておくことが必要である。このためにも、日々の新聞等、関連記事に注意を向け、参考文献 に挙げたテキスト等により疾患の概略的予備知識を事前に持つておくことが望まれる。
テキスト
「看護のための精神医学 第2版 医学書院」 (単なる知識ではなく、主要精神疾患の見方・捉え方、患者の対応の仕方を中心に考える)
参考資料
「コメディカルのための専門基礎分野テキスト2版 精神医学 中外医学社」(精神疾患の知識を網羅的に 説明) その他、講義中に紹介。
オフィスアワー
木曜日 12時から、約1時間(原則として事前予約が必要)
研究室・授業用E-mail
診療研究棟4階403研究室 tkaku@kansai.ac.jp (郭 哲次)

講義コード	2N472011
講義名	看護にいかす疾病論Ⅱ（急性）
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2203
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 神戸 美輪子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

神戸 美輪子〔看護師〕
 小河 健一〔医師〕
 外部講師〔医師〕

目的

「看護にいかす病因・病態学」で学んだ知識を発展させ、とくに外科的治療を必要とする各系統の代表的な疾病の病因・症状・検査・診断・治療を学び、疾病の成り立ちと回復過程を理解する。代表的な疾病のEBM（evidence-based medicine）を学習し、EBN（evidence-based nursing）活用する能力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 外科的治療を受ける患者の侵襲と生体反応について理解できる。
2. 麻酔や手術に関する基本事項を理解できる。
3. 各系統の代表的な疾病の術式および合併症について理解できる。
4. 知識を統合しEBNに活用する論理的な思考的態度をもつ。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 侵襲と生体反応①（神戸）
2. 侵襲と生体反応②（神戸）
3. 麻酔法 ①（外部講師）
4. 麻酔法 ②（外部講師）
5. 麻酔法 ③（外部講師）
6. 運動器疾患 ① 骨折（外部講師）
7. 運動器疾患 ② 人工関節置換術（外部講師）
8. 運動器疾患 ③ リウマチ疾患（外部講師）
9. 運動器疾患 ④ 脊椎疾患（外部講師）
10. 消化器疾患 ① 食道・胃（外部講師）
11. 消化器疾患 ② 大腸がん（外部講師）
12. 消化器疾患 ③ 肝臓・胆嚢・膵臓疾患（外部講師）
13. 消化器疾患 ④ 小児外科 心疾患（外部講師）
14. 消化器疾患 ⑤ 小児外科 消化器疾患（外部講師）
15. 中間まとめ（神戸）
16. 耳鼻咽喉科疾患 ① 鼓室形成術などの耳疾患（外部講師）

- 17. 耳鼻咽喉科疾患 ② 副鼻腔手術など (外部講師)
- 18. 呼吸器疾患 ① 開胸術 (外部講師)
- 19. 呼吸器疾患 ② 胸腔鏡下手術・胸腔ドレナージ術 (外部講師)
- 20. 脳血管疾患 ① 水頭症・脳腫瘍 (小河)
- 21. 脳血管疾患 ② 頭部外傷・開頭術(ドレナージ術含む) (小河)
- 22. 循環器疾患 ① 開心術 (外部講師)
- 23. 循環器疾患 ② 先天性心疾患 (外部講師)
- 24. 血管内操作による手術 (IVR) (神戸)
- 25. 腎泌尿器疾患 ① 腎がん (外部講師)
- 26. 腎泌尿器疾患 ② 前立腺肥大症 (経尿道的内視鏡手術) (外部講師)
- 27. 女性生殖器疾患 卵巣・子宮摘出術 (神戸)
- 28. 婦人科疾患 乳がん (外部講師)
- 29. 移植医療 (神戸)
- 30. まとめ (神戸)

成績の評価

定期試験90%, 小テスト10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。授業計画に注意し、既習の解剖生理・病態など必ず自己学習して受講すること。

テキスト

- 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版」 (医学書院)
- 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 第9版」 (医学書院)
- 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学 [10]運動器」 (医学書院)

参考資料

系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学[2]呼吸器系統 [3]循環器 [4]血液・造血器Ⅱ成人看護学
[5]消化器[7]脳・神経 [8]腎・泌尿器 [9]女性生殖器 [14]耳鼻咽喉, 医学書院

オフィスアワー

神戸 水曜日12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

研究室 C714

kanbe@kansai.ac.jp

講義コード	2N473011
講義名	看護にいかず疾病論Ⅰ（慢性）
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2202
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉井 輝子	指定なし
教員	畑村 育次	指定なし
教員	小河 健一	指定なし
非常勤	水越 正人	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

小河健一〔医師〕
 畑村育次〔医師〕
 水越正人〔医師〕（外部講師）
 福島健太郎〔医師〕（外部講師）

目的

様々な疾病の病因、症状、検査、診断過程、治療などについて臓器ごとに学修し、疾病の成り立ちと回復過程を理解する。さらに、それを踏まえた観察点や生活上の注意点を関連つけて学ぶ。
 小河：各種内科疾患についての基礎知識を修得する。単に内科疾患について丸暗記するのではなく、各種内科疾患における発症原因と特徴、そのために患者がどのような苦痛や悩みを抱えることになるのか代表的な疾患を通じて理解し、他の疾患でも応用ができるように学修する。また、各種検査の方法や指導、観察点なども理解する。

到達目標

- 1、成人における慢性疾患の病態について説明できる。
- 2、病態に基づいた治療・観察点・生活上の注意点を説明できる。

小河：療養チームの中で一番患者と近い位置関係にあるメンバーとして、患者を理解し、患者に寄り添え、患者に適切な指導ができるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

課題探究力／臨床判断能力

授業計画

1. 呼吸器疾患 (1) (畑村)
2. 呼吸器疾患 (2) (畑村)
3. 呼吸器疾患 (3) (畑村)
4. 呼吸器疾患 (4) (畑村)
5. 循環器疾患 (1) (水越)
6. 循環器疾患 (2) (水越)
7. 循環器疾患 (3) (水越)

8. 循環器疾患 (4) (水越)
9. 腎・泌尿器疾患 (1) (畑村)
10. 腎・泌尿器疾患 (2) (畑村)
11. 腎・泌尿器疾患 (3) (畑村)
12. アレルギー・膠原病 (1) (畑村)
13. アレルギー・膠原病 (2) (畑村)
14. 感染症 (1) (畑村)
15. 感染症 (2) (畑村)
16. 血液・造血器疾患 (1) (福島)
17. 血液・造血器疾患 (2) (福島)
18. 脳・神経疾患 (1) (小河)
19. 脳・神経疾患 (2) (小河)
20. 脳・神経疾患 (3) (小河)
21. 脳・神経疾患 (4) (小河)
22. 脳・神経疾患 (5) (小河)
23. 消化器疾患 (1) (小河)
24. 消化器疾患 (2) (小河)
25. 消化器疾患 (3) (小河)
26. 消化器疾患 (4) (小河)
27. 消化器疾患 (5) (小河)
28. 内分泌・代謝疾患 (1) (小河)
29. 内分泌・代謝疾患 (2) (小河)
30. 内分泌・代謝疾患 (3) (小河)

(担当)

- 1～4、9～15 畑村
 5～8 水越 (外部講師)
 16、17 小河
 18～30 福島 (外部講師)

講義の順番は前後することがあります。

成績の評価

成績の評価は、前期、後期それぞれで行うのではなく、前期に中間試験50%+後期に定期試験50%を行い、通年100%として成績評価を行う。

再試験は前期・後期それぞれで行うのではなく、通年の成績評価で不合格となった場合に再試験を行う。そのため再試験の範囲は1年分となる。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき45分相当の予習と復習を行うこと。

小河：予習としては、授業に関係する基礎分野（解剖学、生理学、生化学など）を復習して授業に臨む。

しっかりと復習し、授業で取り上げることができなかった疾患についても自己で整理・理解する。

テキスト

・第1～17回の講義については各担当から資料を配付する。

・小河 (18～30回)：系統看護学講座 成人看護学 5 (消化器疾患)、6 (内分泌・代謝疾患)、7 (脳・神経疾患) (医学書院)：テキストを必ず授業に持参すること。

参考資料

系統看護学講座 成人看護学 2 (呼吸器疾患)、3 (循環器疾患)、4 (血液・造血器疾患)、8 (腎・泌尿器疾患)、11 (アレルギー・膠原病・感染症疾患)、医学書院

オフィスアワー

質問などがある場合は、該当する教員にメールで連絡してください。

吉井：水曜日：12:10-13:00

小河：月曜日：12:00-12:45、木曜日：12:00-12:45

不在のこともありますので、できるだけ前もって連絡お願いします。

上記以外の時間帯も連絡してもらえると可能な日時を相談します。

研究室・授業用E-mail

(畑村) 診療・研究棟3階 402研究室 i-hatamura@kansai.ac.jp

(小河) 診療・研究棟3階 309研究室 ogawa@kansai.ac.jp

(吉井) 5号館7階 717研究室 yoshii@kansai.ac.jp

講義コード	2N476011
講義名	母性看護方法論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N2-3202
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田中静枝（助産師）

目的

母性看護学は次世代の健全育成をめざし、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的とした看護活動を支える実践科学である。女性の一生の中で、最も母性機能を発揮する妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の特徴を理解し、対象に適切な看護を実践するために必要な知識を具体的な事例を踏まえ学修する。

到達目標

- ・妊娠・分娩・産褥の機序を説明できる。
- ・胎児期・新生児の生理と発育について説明できる。
- ・妊娠・分娩・産褥期の女性、および胎児・新生児の特性を踏まえた具体的な看護を説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

臨床判断能力／看護実践力

授業計画

1. 妊婦の看護①
2. 妊婦の看護②
3. 妊婦の看護③
4. 産婦の看護①
5. 産婦の看護②
6. 産婦の看護③
7. 褥婦の看護①
8. 褥婦の看護②
9. 褥婦の看護③
10. 新生児の看護①
11. 新生児の看護②
12. 新生児の看護③
13. 母乳育児と看護①
14. 母乳育児と看護②
15. まとめ

成績の評価

試験80%・小テスト20%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、定期試験答案を開示する。

自己学習

指定されたテキストでの事前学習は授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者選考試験において、母性看護学に関連する科目に相当する。

テキスト

概論・リプロダクティブヘルスと看護：メディカ出版
母性看護の実践：メディカ出版
母性看護技術：メディカ出版

参考資料

病気が見える産科：MEDIC MEDIA
母性看護学1妊娠分娩：医歯薬出版株式会社
母性看護学2産褥・新生児：医歯薬出版株式会社
母性看護学：医学芸術社
母乳育児支援スタンダード：医学書院
妊娠・出産ケアガイド：医学書院MYW
マタニティ診断ガイドブック：医学書院
ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院

オフィスアワー

随時可能も事前に予約の事

研究室・授業用E-mail

5号館C703研究室 s.tanaka@kansai.ac.jp